西日本版

広島支局　〒730-0042 広島市中区国泰寺町1－5－33　電話・082(241)3592　FAX・082(241)3597

福岡支局　〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3－28－12　電話・092(451)3321　FAX・092(451)3387

海田金属

最新鋭ファイバーレーザ 広島地区で初導入

加工受注増への対応向上

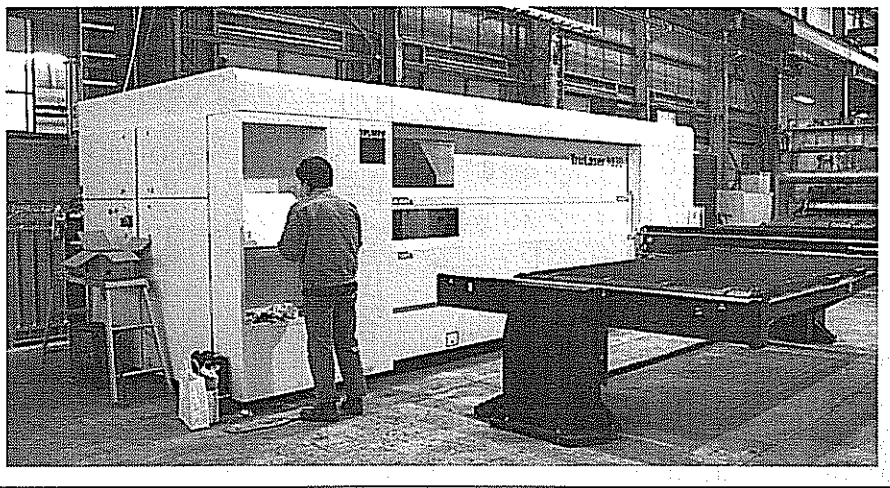
薄中板の精密板金加工を行う海田金属（本社・広島県安芸郡海田町栄町・社長・松村健氏）は、レーザ加工の注文が現行2基体制ではフル操業でもこなし切れなくなったことから、2月下旬、3基目となるレーザ設備を導入した。同社初の最新鋭ファイバーレーザ加工設備で、広島地区鋼材加工業者の中では、他社に先駆けての導入となる。今月11日に本稼働を開始し、精密加工、即納体制の強化を図った。

同社では、本社工場内に5キロワット、2・6キロワットのレーザ加工設備2基を保有している。建機メーカーの外注や特装車両、太陽光発電架台向け加工でレーザ加工需要量が伸長し、現在の月間加工量300トンはリーマンショック前の1・5倍に相当。2基体制でフル操業・外注増が続いたため、需要増の消化を狙い、昨年夏にレーザ設備に10段式ラックを取り付けて夜間操業を可能にした。さらに今回、好調な受注への一層の対応力向上を図るため、3基目の増設に踏み切った。

新レーザ加工設備はトルンプ製ファイバーレーザ「TruLaser1030」。本社工場のシャーリング一基を移動させ、据え付けた。切断速度の速さを生かし、普通鋼6ミリ以下の板厚の酸洗鋼板を中心に、細かい部材の切り出しを担当する。従来保有機はステンレスなどを切断するなど、使い分ける。今回の設備投資で受注能力に上方弾力性が生じるが、協力会社への外注量は極力減らさず、安値の難加工品などを内作に回す方針。

投資額は付帯設備・工事・本体で4千万円。一般的なCO2レーザーの同等能力機と比較し、消耗品などのランニングコストがおよそ半分程度に抑制できる点も、導入に際し評価した。今後に控えるレーザ設備の老朽更新時には、ファイバーレーザ追加導入を視野に入れている。

今6月期業績はレーザ加工の伸びが貢献し、前期比25%増の7億3千万円に達する見込み。受注回復傾向に対応し、現場作業員も拡充。今春はレーザ要員の2人と製缶・溶接要員各1人を増やす。



広島地区初導入のファイバーレーザ

新足場システム「ネオシティ」

組立・解体を実演

ビティ会九州で研修

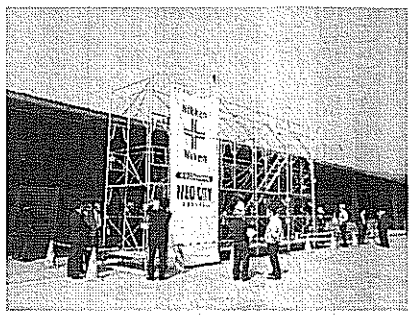
日鉄住金建材九州支店

日鉄住金建材九州支店（支店長・岩嶋賢氏）は8日、粕屋郡宇美町の日建リース工業福岡支店内において、今年から本格販売を開始する、新足場システム「ネオシティ」の組立・解体実演＝写真＝を開催した。軽仮設のリース業者で組織する「ビティ会九州支部」（支部長・長岡久喜三和リース社長、会員・17社）の研修活動の一環として実施したもので、九州一円から約30人が参加。新商品に対する商品知識を深めた。

研修会で挨拶した長岡支部長は「より進化した『ネオシティ』を、より深く理解してもらうために商品展示会を開催した。他の商品や工法と見比べて、今後に役立ててほしい」と挨拶。

岩嶋支店長は「前半は良くなかったけど、昨年秋以後は盛り返しており、失われたバブル反転期の息吹を感じる。仮設業界の稼働率は50%から70%に上昇しており、その意味では徐々に盛り上がってきている」と述べた。

佐賀健一ビティ商品部部長は「今まで試施工で、10例近く試してきたが、今日見て頂いたのが最終形です。建築の枠での使用が多いのではないかというので、軽量で施工性に優れている。トータルコスト的には他社さんより安い」と語った。



組立・解体実演を開催

2013年に挑むキーマンに聞く⑤

ステンレス 現状と課題

――業界の現状に対する認識から伺いたい。

場合は、昨秋に2万円引き上げられたのを皮切りけでなく、コストプッシュ材料が目白押し。適正マージンを確保するため、不退転の覚悟で値戻しに取り組まなければならない」

――2011年度の九州地区ステンレス鋼板だ。とはいえ、政府の景気浮揚策の施行によって13年度は大幅な需要増が見込める。増加に転じると期待している」

――業界を良くするためには、何が必要だと考えますか。

全構協 西日本3支部

理事長交流会を開催

加工賃問題など議題に

全国鉄構工業協会の中国・四国・九州の3支部は8日、岡山市内のホテルで合同理事長交流会を開いた。各県の概況を報告し合い、最大の関心事である加工賃値上げに向けた取り組みなどの業界課題について、出席者が熱心な意見交換を行った。

冒頭、鳥取県鉄構工業会の井上博司理事長は「我々業界はいまだに景気が良くなる実感が持てないが、一部に明るい兆しも見え、昨年来計画されていた物件が動き出し、今後も大型物件の発注が計画される。この時期に値戻しと適正価格の実現し、未来に向かって希望の持てる業界として成長させる、後継者に引き渡すことが我々の責務だ」と開会挨拶した。

全構協青年部

中国ブロック 先人を是正

全国鉄構工業協会青年部会中国ブロック

な商習慣とは。

「例えば、ユーザーとの品質や納期、価格交渉が終わって注文が決まった後で追加ネゴする習慣。結果として『端数を切られて値下げを押し付けられる』『来月から諸過程において、需要の裾

いる記念事業『福岡タワー周辺の清掃ボランティア活動』にも、有志が参加する」

――最後に、ステンレス業界の展望を。

「インフラ整備が進む

これで勝負！

共和工業所 リサイクル機器分野へ拡販

「ハルドックス」の耐衝撃性に着目

鋼材加工販売・産業機器製造の共和工業所（本社・岡山県倉敷市、社長・石本隆一氏）はスウェーデン製特殊鋼「ハルドックス」の耐衝撃性を切り口に、リサイクル分野への拡販・新規受注に傾注している。

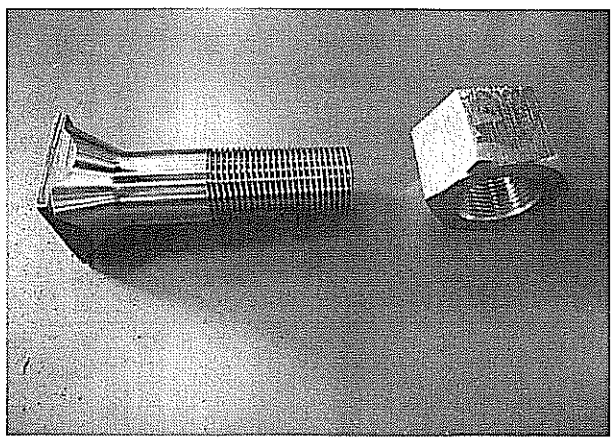
同社はスウェーデンスチール（SSAB）製のスウェーデン鋼を各種取扱い、販売・一次加工を行っている。耐摩耗鋼「ハルドックス」は、一般的には耐摩耗性が製品特長だが、固定概念に捉われず耐衝撃性に着目。産廃物の粉砕機械類は稼働中、常時衝撃が加わるため、消耗パーツの取替頻度が高く、潜在需要が望めることから営業展開を図っている。

リサイクル分野への営業展開を図る上では、昨年に製作・納入したボルトの実績が後押し材料。ハルドックスの耐衝撃性に注目したエンドユーザーが、鉱物粉砕用設備に使うボルトの製作を依頼。この設備は横型ドラム缶形状（長さ5メートル×直径2・5メートル）で、内側のライナー止めにボルトを使用。従来はニッケルモリブデン鋼を使用していたが、過酷な使用環境から金属疲労により年間500本が折れていた。

依頼を受けた同社ではハルドックス板材から丸棒を削り出し、ネジ切り加工を施し製作した。ユーザーへの納入以降、半年以上が経過しても、1本も折れておらず、実績を伸ばしている。なお、このボルトは、昨年11月にSSABが本国スウェーデンで毎年開いている提案営業アワードで、約200点の出展品の中から銀賞に輝いている。

ボルト製作費用は従来品の3倍と割高。先行投資額が高い分、検査頻度や取替コスト、労働災害リスクの軽減が図れるため、「トータルなコスト削減に貢献できる。同様の悩みを抱える顧客に提案したい」（石本社長）。

同社は2009年10月からSSABと直取引、加工販売を開始。切断・加工販売の実績から、昨年に日本における認定加工工場「ウェアパーツサプライヤー」という看板を加え、ジワリと認知を広めつつある。12年8月期の売上高10億2千万円のうち、耐摩耗鋼の割合は1ケタ台。早期に全体の10%に引き上げたい方針。



丸棒から削り出し製作したボルト

石本社長